

はと時計 「図書館」

11月1日は、並んだ数字の「1」が本棚に本が並ぶ姿に見えることから「本の日」です。また、10月27日から11月9日までは「読書週間」ということもあり、登場人物が十代の図書館にまつわる本を集めてみました。

読書の秋です。読書が好きだという人も、少し苦手だという人も、図書館で目にとまった本を開いてみませんか。あなたの今年の一冊がみつかるかもしれません。

松蔭中高図書館 2023年11月1日発行
library@shoin-jhs.ac.jp 担当 三上

『世界の不思議な図書館』

アレックス・ジョンソン 著
北川玲訳

創元社 2016

電話ボックスの図書館、象が運んでくる図書館、木の上や自転車の図書館：世界にあるちょっと不思議なユニークな図書館を紹介。本を集めた場所というだけでなく、芸術的な建物や人と人をつなぐ「コミュニティーセンター」など、型にはまることなく利用する人に多くのものを提供している様子が分かります。

『にんげんが文字をつくってから』

シュザンヌ・ビュキエ文・構成
あわづひろこ訳

リブリオ出版 1992

本の歴史を遡ると文字の誕生にたどり着きます。文字は情報伝達の手段として、長い時間をかけて現在のようになりなりました。世界の歴史で文化・宗教が分かれたように、文字も五つの言語圏に分かれました。日本は中国の言語圏ですが独自にかな文字も使うようになり「漢字かな混じり文」を使うようになりました。文字の歴史と五言語圏の民話を紹介。

『世界を変えた1000の』

ロデリック・ケイヴ、サラ・アヤド 著
大山晶訳

原書房 2015

文字がつくられ情報を記録として残すことができるようになると本が生まれました。人類最初の本(?)は洞窟に描かれていましたが、そこに書かれたものは何で、誰に伝えたいものだったのでしょうか。紙や印刷技術、伝えられた内容など、太古から現代までの本の長い歴史をたどります。

『本をどう読むか』

幸せになる読書術
岸見一郎 著

ポプラ新書 2019

本を読むときは、どんなときでしょうか。最後まで読むことができず、本を読むことが嫌になったことはありませんか。

著者は子どものころからの読書家で哲学者。本の選び方や読み方だけでなく、外国語の学び方や書くことについても紹介。積読でも大丈夫。そのとき読めなかった本が、その後で大切な一冊になるかもしれません。

『高校図書館デイズ』

成田康子 著

ちくまプリマー新書 2017

何気ない会話、聞いた話、読んだ本…感じ方や考え方は人それぞれ。何が正解なのかはわからないこともあります。好きなこと、大切にしているもの、苦手なことなどを高校生と司書が本を通じて語り合います。自分では気づいていなかった自分への…十三人の高校生生活と人との出会いを紹介。生徒が語った本の紹介もあります。

『風をつかまえた少年』

ウィリアム・カムクワン 著
田口俊樹訳

文藝春秋 2010

アフリカのマラウイに育った著者は、飢饉のために学費が払えず中学校に行けなくなり、食へることも困るなか学校の小さな図書室で出会った一冊の本をきっかけに、自分の力で風車と発電装置を作りだします。村の人々を救った功績が見出され、その後は大学へ進学もできました。実話をもとに映画にもなりました。

『アウシュビッツの図書係』

アントニオ・G・イトルベ 著
小原亨子訳
集英社 2016

本が八冊しかない図書館。そしてその本をたった一人命がけで守るディタは、アウシュビッツ強制収容所で暮らす十四歳の少女です。常に監視され、死を目前にしている心までは拘束されず、学びや読書をやめなかった人たち。理不尽な大切な人の別れの辛さは、何時も変わることはありません。実話をもとにした作品です。

『紙の心』

エリーザ・ブリチェリ・グエッラ 著
岩波書店 2020

この物語は手紙のやりとりだけの書簡体小説です。

図書館の本にはさんだ手紙から知りあった二人。名前を隠し直接会わない約束をしますが、惹かれあうようになり、やがてお互いが持つ暗い過去と、暮らしている研究所の秘密には深い関係があると考え、友だちと一緒に探っていくようになり、近未来社会での「紙」が意味を持つラブ&ミステリーです。

『貸出禁止の本をすくえ!』

アラン・グラッツ 著

なごつふみこ訳

ほるぶ出版 2019

主人公は本の好きな小学生工イミー・アン。ある日学校図書館へ行くと、十二回も読んだお気に入りの本が貸出禁止になりました。子どもたちに「常識」を教えない大人たちと、読みたい本を読もうとする子どもたちの対立はどう決着するのでしょうか。この本にでてくる貸出禁止になった本は、過去にアメリカで実際に貸出禁止になったもので松蔭図書館にもあります。

『読書嫌いのための図書案内』

青谷真未 著
ハヤカワ文庫 2020

読書家の藤生蛭と図書館新聞の担当になってしまった荒坂浩一はある理由があって読書が嫌いです。新聞に載せるために依頼した感想文の物語を読み解きながら、過去の不可解な事件について探ることにあります。感想文を読んだらその人が本のどこに光を当てたのかわかって面白いという荒坂は、本を読めるようになるのでしょうか。

『本と鍵の季節』

米澤穂信 著
集英社文庫 2021

「謎を解く鍵は図書館にある」

高校一年生の図書委員コンビ、お人よしの堀川次郎と少し大人びた松倉詩門が身の回りにおこる問題をたいてゆく、本と鍵にまつわるミステリー短編集。放課後の図書館、静かな時間の中で、二人の友情も含めた物語は、松倉の隠された秘密にもふれてゆくことになりました。

『教室に並んだ背表紙』

相沢沙呼 著

集英社 2020

「(本は)みんなどれも個性的なの。綺麗な装幀に包まれて、素敵な名前をつけられて、どれ一つとして同じものなんてない」
本に栞(しおり)をはさむように、大切な時間を一緒に過ごした中学生たちの物語は時間を越えて続いていきます。
本を読むときに使う栞の語源は山で道に迷わないように、木の枝を折って目印にしたことだと言われています。

『世界は一冊の本』

長田弘 著
晶文社 1994

「立ちどまらなければゆけない場所がある
何も無いところにしか見つけられないものがある」
「立ちどまる」
日々の生活のなかで、自然のなかで、「生きる」ことを見つめた詩集。
「人生という本を、人は胸に抱いている」感じることに、考えること行動すること…自分の本はどんな一冊になるのでしょうか。



11月4日(土)まで
全校読書運動の
優秀作品を展示中。



11月6日から11日まで
宗教週間で、
チャリティブックセールを実施します。
1冊10円以上のご寄付をお願いいたします。

リクエスト本の紹介
『超新星紀元』劉慈欣
(リュウ ジキン) 著
ハヤカワ書房 2023



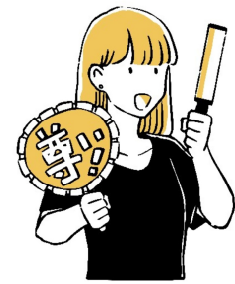
「VUCA (ブーカ) の時代」という言葉を耳にすることが増えました。「先が予測できず、どうなるかわからない不確実性の高い時代」という意味です。

この本に書かれている世界はまさに究極のVUCA。超新星の爆発で人体細胞の染色体が完全に破壊され、14歳以上の人間は染色体の修復能力を失って1年以内に死に絶える。子どもだけが残されて果たしてどうやって生きていくのか？

現実の世界でも予測不可能なことが次々と起こっています。人は生きていくために何が必要か、また生きていく中で自分は何ができるのか？若い皆さんにも考えてみてほしいなと強く思われました。

M・F

『世界が広がる推し活英語』劇団雌猫著
学研プラス2022



様々なジャンルの推し活に使える英単語・フレーズ集です。自分の思いを直接推しに伝えたい、ファンレターの書き方3種、作品の感想を語り合い、初心者に推しを布教する、聖地巡礼、スタッフさんへの質問など推し活必修単語・表現が並んでいます。韓国語版もあります。

図書館クイズ2023

問1 平清盛は兵庫に都を移し、中国の宋と貿易をしようと考えていました。そのために必要な、ある工事を行いました。それはどんな工事でしょう？



平清盛

1. 運河を作った
2. 島を作った
3. 大きな港を作った
4. 橋を作った

問2 植物の中には人の名前がつけられたものがあります。次の植物のなかで、実際にあるものはどれでしょう？(正解は二つ)



1. アツモリソウ
2. ヨイチソウ
3. クマガイソウ
4. ヨリトモソウ

問3 年末の「紅白歌合戦」などで言われる「紅白」という色組み合わせは源平合戦に由来するとされています。



では源氏と平氏、どちらが「赤」でどちらが「白」？

問4 平敦盛の持っていた「青葉の笛」は敦盛の首と一緒に須磨寺に納められました。昔から歴史上の歌人・俳人が須磨寺を訪ねて歌を詠んでいます。松尾芭蕉は須磨寺でのある不満を故郷への手紙に残していました。その不満に思ったこととは？



1. 拝観時間が短かった
2. 人が多くて見えなかった
3. 拝観料が高かった
4. 詠んだ歌の短冊を置かせてもらえなかった

問5 1180年から1185年まで続いた源氏と平氏の争いは壇ノ浦(山口)の平家滅亡で終りを迎えます。この壇ノ浦辺りの海で「平家の亡霊が乗り移った」といわれる生き物がいます。次のうちのどれ？



1. クラゲ
2. エビ
3. 魚(オコゼ)
4. カニ

問1~5の答を書いて図書館カウンターに10日(金)までに提出してください。

全問正解者の中から抽選で5名に素敵な王子動物園のオールスターハンカチを、2名の方にトートバックを差し上げます。

#図書館クイズ2023 #平家物語

